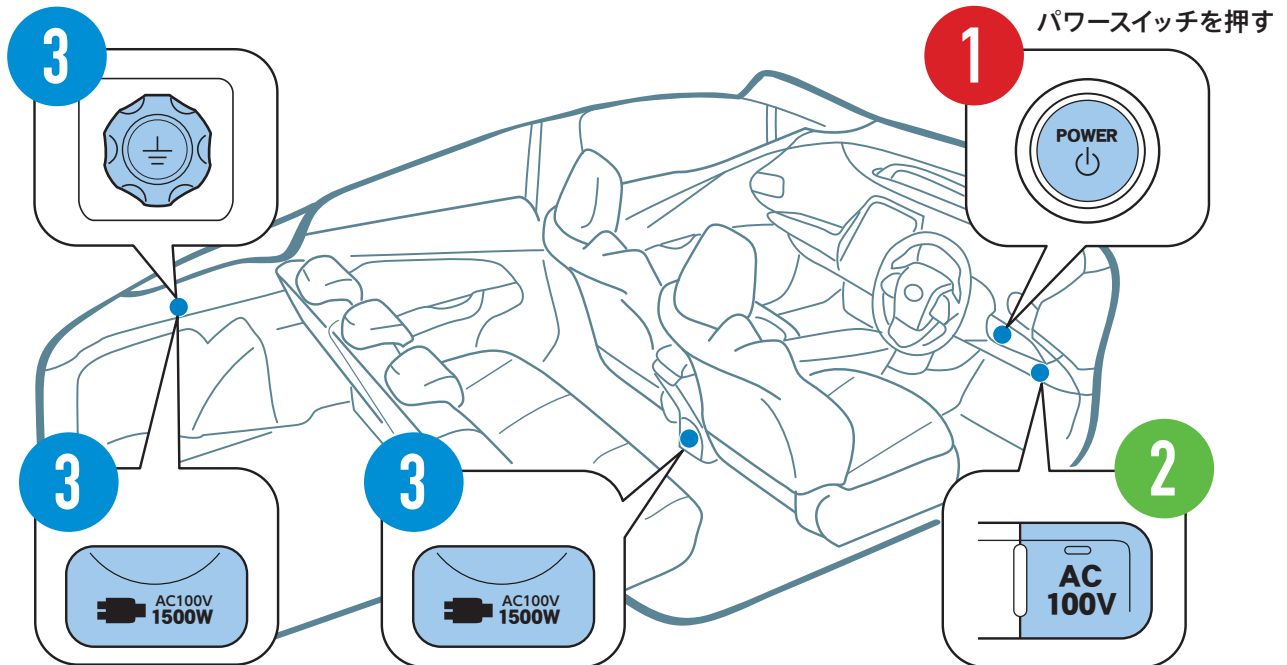


AC100V アクセサリーコンセントの使い方

AC100Vで最大消費電力1500W以下の電気製品を使うときの電源としてご使用ください。

例 プリウスの場合 車種によって場所が異なりますが、同様のスイッチ及びコンセントが存在します。



フタを開けて電気製品の電源プラグを差し込む

READY インジケータが点灯したら、AC100Vスイッチを押す

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認し、ブレーキをしっかりと踏みながらパワースイッチを押してください。

2 READYインジケータが点灯したことを確認し、AC100Vスイッチを押してください。作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。AC100Vスイッチを押すたびに、コンセントのON/OFFが切り替わります。

3 フタを開けて、電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込んでください。
アース線のある電気製品を使用する時は、ラゲージルーム内のコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。
※ラゲージルーム内のコンセントがない車種もあります。

アクセサリコンセントを安全にお使いいただく上での注意事項

お守りいただかないと思われ事故の原因となり、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。詳しくは取扱書をご覧くださいか販売店におたずねください。

【電源コード／配線】

■コンセントに、二股などの分岐用コンセントを複数接続しないでください。コードが発熱する可能性があります。異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。

【使用する電気製品】

■使用する電気製品の取扱書の注意事項に従ってください。一般の電気製品の多くは自動車内や屋外での使用は想定されていないため、次のような問題が発生する可能性があります。 ●走行中の振動で故障する可能性 ●特に外気温が低いときや高いときでは、故障や作動不良になる可能性 ●水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性 ■防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。 ■車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあるため、医療機器は使用しないでください。 ■次のような電気製品は正しく作動しないおそれがあります。 ●起動時の電力が大きい電気製品 ●精密なデータ処理をする計測機器 ●きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品

【使用する電気製品の消費電力】

■合計消費電力は1500W以下でご使用ください。1500Wを超えると保護機能が作動し、給電機能が停止します。 ■定格消費電力合計が1500W以下であっても、起動時等に大きな電力を必要とする電気製品があります。その場合は、保護機能が作動して、給電機能が停止します。 ■定格消費電力が大きな電気製品(ホットプレートなど)の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合、他の電気製品と併用しないでください。

【使用する電気製品の作動周波数】

■工場出荷時の電源周波数は車両によって異なります。車両の取扱説明書を確認し、電気製品の使用可能な周波数と車両の電源周波数が異なる場合は、販売店にご相談ください。

車外の電気製品と接続してご使用になる場合は次の項目にもご注意ください

【車両の安全確保】

■エンジンが作動することがあるため、次のことをお守りください。とくに、車外に電源コードを引き出して使用する場合は、誤って車両を発進させないようにご注意ください。 ●使用中は車両から離れないでください。 ●誤って手を入れないようにボンネットは閉めてください。 ●シフトはPポジションにして、パーキングブレーキを作動させてください。 ●地面が固く平らな場所に駐車し、できれば輪止めを設置してください。 ●必要に応じて、メカニカルキーでドアロックしてください。 ■落雷の可能性がある天候の時はコンセントを使用しないでください。使用中、雷に気づいたときには使用を停止してください。 ■一部地域では駐車または停車中にエンジンを始動させた場合、条例に触れるおそれがありますのでご注意ください。

【電源コード／配線】

■コードリールを使う場合、コードが発熱する可能性がありますので、コードはリールからすべて引き出してご使用ください。 ■車外に電源コードを引き出して使用する場合は、雨水の侵入などにご注意ください。コンセントに雨水が附着した場合は、乾燥させてから使用してください。 ■電源コードをドアなどに挟まないようご注意ください。

【換気】

■エンジンが作動することがあります。給排気設備のない車庫内などの換気の悪い場所や囲まれた場所(雪が積もった場所)などでは、酸素欠乏のおそれや、排気ガスが充満したり滞留したりするおそれがありますので、使用しないでください。

【外気温が高いとき】

■炎天下など、車内が高温になる状態で使用すると、給電機能が停止することがあります。その場合は、車両を日陰等に移動したり、エアコンを使用するなどして室内温度を下げてください。

【外気温が低いとき】

■特に外気温が低いときは、給電機能が作動できないことがあります。その場合は、車両を走行させるなどし、車両を暖めると使用できる可能性があります。